



空間の質を問う。

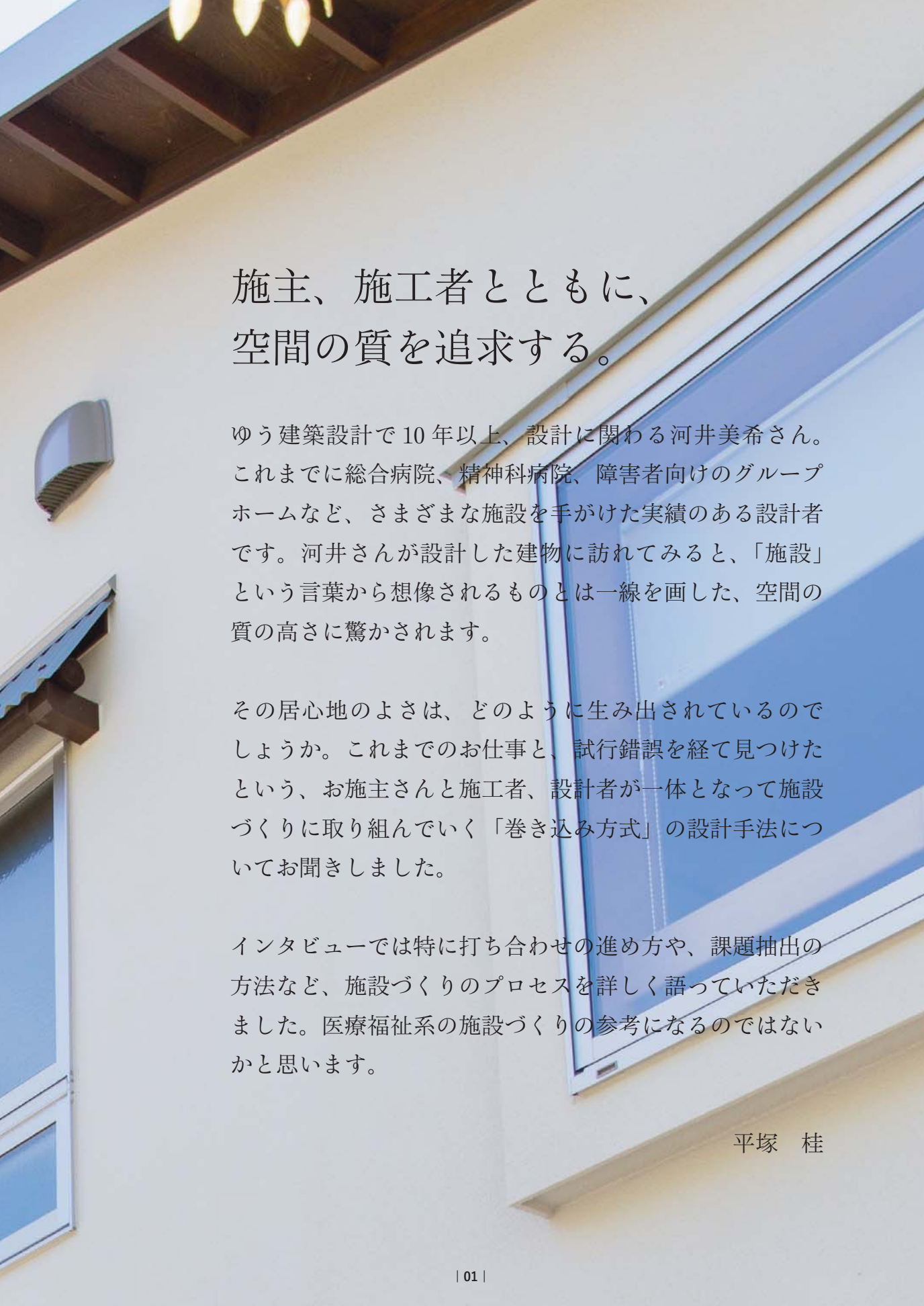
河井美希

*What is quality
of space?*

ゆう建築設計の建築家



時空読本



施主、施工者とともに、 空間の質を追求する。

ゆう建築設計で10年以上、設計に関わる河井美希さん。これまでに総合病院、精神科病院、障害者向けのグループホームなど、さまざまな施設を手がけた実績のある設計者です。河井さんが設計した建物に訪れてみると、「施設」という言葉から想像されるものとは一線を画した、空間の質の高さに驚かされます。

その居心地のよさは、どのように生み出されているのでしょうか。これまでのお仕事と、試行錯誤を経て見つけたという、お施主さんと施工者、設計者が一体となって施設づくりに取り組んでいく「巻き込み方式」の設計手法についてお聞きしました。

インタビューでは特に打ち合わせの進め方や、課題抽出の方法など、施設づくりのプロセスを詳しく語っていただきました。医療福祉系の施設づくりの参考になるのではないかと思います。

平塚 桂

Interview

共に作り上げるデザイン。

河井美希の建築設計術

河井さんが大事にする「空間の質」とは？
病院やグループホームの仕事から見出した設計
手法を振り返っていただきました。

広島県出身。京都府立大学生活科学部住居学科卒業。京都市内の設計事務所勤務を経て2007年、株式会社ゆう建築設計入社。主な担当作品にそよかぜ病院(2019年)、グループホームあいりす・こすもす(2019年)、グループホームりあん(2018年)、グループホーム 葉の花／カフェ・ショップ花鈴(2016年)、新須磨病院(2015年)、紫野協立診療所(2014年)、たずみ病院(2012年)など。

取材・文：平塚 桂 撮影：大塚 崇(P.01、02、05-08)

建築に向き合うまで

—— 建築を仕事にしたきっかけは何ですか？

河井 元々キュレーターに憧れて、大学受験では東洋文化を学べるような学科を中心に受験したのですが、受かったのは京都府立大学の住居学科でした。母が看護師、父が国家公務員だった影響で、国家資格を持っているれば食べていけるという考えがあり、一級建築士の受験資格が取れることから、候補に入れていたのです。

—— 積極的に建築を志したというわけではなかったのですね。大学入学後は、いかがでしたか？

河井 建築を美術品のようにしか見ることができず、何をしたいのかわからないまま卒業して、指導教員に紹介された設計事務所に勤めました。根は真面目なので、そつなく仕事をしていたのですが、建築設計の魅力に気付くのにはずいぶん時間がかかりました。

—— それが変わったのは？

河井 ゆう建築設計に転職してから

です。ここは企画からデザインまでの多くのところをかなり担当者に任せます。真剣に建築に向き合い、自分の設計のスタイルや仕事の進め方、方向性を確立しなくてはと実感しました。

膨大なプログラムをまとめる

—— 『新須磨病院』について

—— ゆう建築設計で10年以上過ごされる中で、転機となったプロジェクトというのはありますか？

河井 2015年竣工の『新須磨病院』^aです。病院設計には、必要多くのプログラムや課題を満たすことと、多くの人間が関係するプロジェクトを推し進めるという2つの難しさがあります。そこは外来も充実していて17科と科目が多く、推進するのに苦労しました。

—— 17科それぞれのご要望と機能を満たす必要があるわけですね。

河井 そうなのです。それまでに設計した病院は外来の数も比較的小なかつたので、これだけ多いと打ち合わせが大変でした。

[長く愛されるための、ディテールの工夫] 新須磨病院



a 外観。数種の上質なタイル数種を貼り分けている。**b** 西館1階受付・会計。椅子の張り地は、エリアによって色分けしている。 ●所在地／兵庫県神戸市須磨区●用途／病院(147床)●構造／鉄筋コンクリート造●規模／地下1階+地上5階●敷地面積／4,688.26㎡●建築面積／2,825.88㎡●延床面積／10,569.21㎡●竣工／2015年7月

——さまざまな意見を上手くまとめるには、工夫が要りそうです。どのように進められたのですか？

河井 『新須磨病院』では、はじめに院長と看護部長、事務長、経理部長、副院長というプロジェクトリーダー

ムとの会議の中で、全体のゾーニングを決めました。その後、科ごとの打ち合わせに移行しました。そうすると、プロジェクト会議では出てこない細かな要望が出てきます。——その場合、どのように打ち合わせを進めるのでしょうか？

河井 まずはこちらの提案した図面に対し、思いつくまま意見を言ってもらうようにしました。中には実現が難しい要望もあるのですが、その場合は、必ずそうした理由を尋ね

るようにしました。理由を伺えば、プランを描く際にもっとよい発想で提案ができるからです。意見を言えないような打ち合わせ環境で強引に進めていくと、不満が先行し、結果、機能的にできていたとしてもそれを正しく使ってもらえないことがあります。時間はかかりましたが、納得してもらえらるまで打ち合わせを繰り返しました。

——拝見させていただいた際に副看護師長が「医師、看護、技術、経営からのさまざまな意見を吸収した上で提案をくださいました。みんなで作った病院だと実感しています」とおっしゃっていました。そういったプロセスは、どのあたりに反映されていますか？

河井 たとえばエスカレーターの速度は三段階から選べるのですが、プロジェクトメンバーで近くのエスカレーターを試乗して検討し、安全面から最も緩やかな速度に決めたということがありました。

——西と東で大きく2つのブロックに分かれています。プランニングにどのような工夫をされましたか？

河井 効率のよいゾーニングをした上で、カラーリングやサインを駆使して迷いにくいよう工夫しています。たとえば海側の病室のサインは明石海峡大橋などをモチーフとして方角を伝えるなど、さりげなく居場所を伝える工夫をしました。

——副看護師長が「天使が歩く廊下」と表現されていた3階廊下のように、各所に自然光を採り入れることも印象的です。

河井 視線の先に外光が見えるようにして、奥行きを感じさせるようにしています。長く使っても飽きの来ないことが大事だと思うので、心地よいベーシックな空間をしっかりとつくり、外部やロビー周辺の壁面に上質なタイルを使うなど、素材にも気を配りました。

精神科の病棟での生活の質を上げる
——『そよかぜ病院』について

——つづいて『そよかぜ病院』^cについて教えてください。精神科の専門病院だとお伺いしましたが、一般的な病院とはどう違うのでしょうか。

か。

河井 精神科の病院は、物を壊す方、不安定で暴力的な行動をとってしまう方への対策など、特別なディテールが必要です。『そよかぜ病院』ではじめて精神科を担当したので、とにかく実情を知ろうと、建て替え予定の病院に一泊滞在させてもらい、リサーチしました。そこで破壊行為などへの対応以上に、長期入院が多いことに着目すべきだと感じました。短くても数ヶ月、中には開院までもなく10代で入院し、すでに60歳近くになっている方もいました。病院というよりも住まいに近いと感じました。

——特殊な事情がある科なのでですね。

河井 そうなのです。建て替え前の病院では、大部屋にベッドが並び、カーテンの仕切りすらなく、おおよそプライバシーに配慮されているとは言いがたい環境でした。そのせいか病室で時間を過ごす患者はまれで、多くの方が、廊下と食堂を行ったり来たりされていました。同じ障害でも、知的障害者のグループホームな

長く飽きのこない建築になるよう、空間構成や素材に気を配ります。

[精神科のイメージを変える] そよかぜ病院



^c 川沿いの道路から見た際、控えめでかわいらしい印象になるよう意識した外観。●所在地／徳島県徳島市●用途／精神科病院(192床)●構造／鉄骨造●規模／地上4階●敷地面積／12,095㎡●建築面積／2,700㎡●延床面積／7,430㎡●竣工／2019年3月

らは開放的な環境で過ごせるのに、精神障害者は厳しい環境で何十年も過ごしていたりする。矛盾を感じ、『そよかぜ病院』の方と、入院環境の質を考えることの重要性を共通認識としました。

——病院の方は、どんなご要望をお持ちだったのですか？

河井 理事長は、地域に長らく定着している精神科の負のイメージを変えたいとも考えており、提案した方針を理解してくださいました。そこで入院環境を向上させるために、限られた予算で可能な限り工夫しました。

——たとえばどのように？

河井 多床室には3つの窓がありますが、ベッドごとにカーテンで仕切られた中央の通路の突き当りの窓は透明ガラスにして、そこからは誰でも外の景色を見たり、天候をうかがうことができるようにしました。川に近く、窓の向こうに徳島のシンボルである眉山が見えるような風光明媚な場所にも関わらず、既存の病院では外の景色を眺めるようにつくりではなかったんです。

——これだけでかなり居心地が変わりそうですね。

河井 新病棟になってから、日中病室で過ごす方が増えたそうです。泊まり込みのリサーチで気づいたことなのですが、患者さんはあまり身体を動かさないので、夜なかなか眠くならないのです。そこで消灯時刻に向けて段階的に照度を落とし、眠りやすくなるように工夫しました。また以前の施設では足音や声が反響し、患者さんに緊張感を与えていたので、天井を吸音性能の高い素材として音環境を向上させました。

——地域での精神科のイメージを変えるには、外観も重要そうですが、どのように決めたのですか？

河井 川沿いの道路から一段低い敷地があり、犬の散歩などをされる方もいるので、見下ろしたときにかわいらしい印象になるとよいなと思いました。幾何学的でシンプルな形を活かして、ポリリウムごとに外壁の色を変えてみたのですが、ある人が「土手の下にプレゼントがそっとおかれているよう」と形容してくれました。

グループホームの居心地を追求する

『グループホーム 菜の花／

カフェ・ショップ花鈴』について

——最後、障害者向けのホーム『グループホーム 菜の花／カフェ・ショップ花鈴』について教えてください。

河井 クライアントは、京都府北部で障害者福祉事業を展開する、よさのうみ福祉会です。私は障害者向けの施設を担当するのははじめてで、最初の打ち合わせには『重度対応型グループホーム 響・奏』の担当者

の岩崎に同行してもらい、設計のノウハウも彼女に教えてもらいながらつくりました。

——ご要望の内容は？

河井 グループホーム全体の施設運営をみている3名の方々と打ち合わせを進めました。すでに他の重度障害者向けのホームをたくさんご覧になっていたので、そこで感じたことや資料を共有いただきながら、方向性を探りました。何度目かの打ち合わせで、「ほっとするホーム」というキーワードが出ました。結局、住まいとして居住者たちがほっとできるのが一番



北欧を訪ね、福祉施設における 「空間の質」の大切さを確信しました。

だ。

——住宅街の中にありますが、そこでどんな工夫をされましたか？

河井 敷地が広く、周辺との関係も重要なので、配置計画には時間をかけ、何案もつくりました。工事説明会で、地域の方々の意見をお伺いしましたが、「危なくないのか」と、とにかく不安な様子でした。怖がる気持ちにはわからなくもないので、理解して見守っていただくために、どんな人が生活しているのか感じられる仕掛けがあると考えたのです。

——なるほど。それで敷地に道路からフラットにつながる通路「なかみち」を通しているのですか^f。実際の反応はいかがですか？

河井 なかみちで犬の散歩をする人が多く、犬が用を足す場所では植物がよく育つそうです。

——なじんでいますね。なかみちに佇んでいると、扉や窓の向こう側に

人影がフツとあらわれたり消えたりするのも面白いです。

河井 さり気なく生活の気配を感じさせるようにしています。このたび久しぶりに訪れましたが、完成から3年を経過して、土地と建物の境界がより曖昧なものとなり、思い描いていたとおりに建物が「育って」いたことが確認できてほっとしました。^e

——内装についてはどのような工夫をされましたか？

河井 色味は抑えつつ、床に無垢材を入れるなど使う素材に質感のよいものを選び、誰にとっても居心地がよく、飽きのこない空間となるようにしました。また照明も単調にただ明るくするとストレスになるので、廊下では照度と色温度を落とし、リビングにはハレの場にふさわしいペンダント照明を入れるなど使い分けをしています。^d 空間に取



[グループホームを開かれた居場所に]

グループホーム 菜の花／カフェ・ショップ花鈴

^d 共同リビング。建物の中核にあり、入居者の居場所として活用されている。照明には、輸入物のペンダント照明を採用。^e さまざまな植物の混栽からなる植栽は、居室からの目隠しを兼ねる。^f L字型配置の建物。施設内の通路「なかみち」は、誰でも通り抜けられるようになっている。●所在地／京都府与謝野町●用途／共同生活援助(グループホーム、定員9名)●構造／木造●規模／地上1階●敷地面積／1,074㎡●延床面積／431㎡●竣工／2016年3月

り入れる素材やアイテムを大事にする姿勢は、北欧の建築に学びました。この仕事が始まったのは、ゆう建築設計で障害者向けの施設をはじめて間もない時期で、福祉の先進国であるフィンランドに研修に行かせてもらい、障害者の住まいなどをめぐりました。そこでは上質な家具やアートが当たり前にあることに大きな感銘を受け、私の設計するグループホームの方向性が見えてきました。特に高価なものを入れる必要はないのですが、生活環境を大事にする意識が重要なのだと。

——だから材料や形を丁寧に考えているんですね。

河井 そうです。居住者は自由に引っ越しもできず、意見を伝えることも困難な方が多く、施設の運営者や設計の人間が彼らの立場に立って、居心地のよい空間とは何なのかをきちんと考えないといけないと思っています。

巻き込み式の協働プロセス

——病院や福祉施設の設計というの

は、要望や立地、関わる人など条件次第でそれぞれ違った回答が求められるんですね。さまざまな条件に対し、よりよい回答を導き出すのが河井さんのモチベーションのひとつなのではないかと感じます。

河井 それは大いにありますね。施設ごとの特色があり、打ち合わせをする相手の方も違います。徐々にお互いを理解しながら同じ目標に向かうというのは、気持ちよいものです。現場に入ったら、施工者にこう伝えます。常に建物を使う人の立場にたって造るという意識を持たなければ上手くいかないと。お施主さんには、現場に入ってから打ち合わせはつづくので、心してくださいねと言います。

——お施主さんをお客様ではなく、チームの一員として扱うのですね。

河井 お客様扱いで蚊帳の外に置かれると、意見をどのタイミングで言えばいいの迷まったり、不安になると思うんですよ。ですので、できるだけ定例会議に出てもらい進捗状況を共有します。お施主さんに現場の雰囲気伝わりますし、何をいつま

「菜の花ホームの「続編」」

グループホーム あいりす・こすもす



g 外観。中～重度の障害者が暮らすグループホーム。「菜の花ホーム」のよさのうみ福祉会が運営し、無垢材の仕上げなど仕様も共通。●所在地／京都府宮津市●用途／共同生活援助(グループホーム、定員12名)●構造／木造●規模／地上2階●敷地面積／343㎡●建築面積／205㎡●延床面積／405㎡●竣工／2019年3月

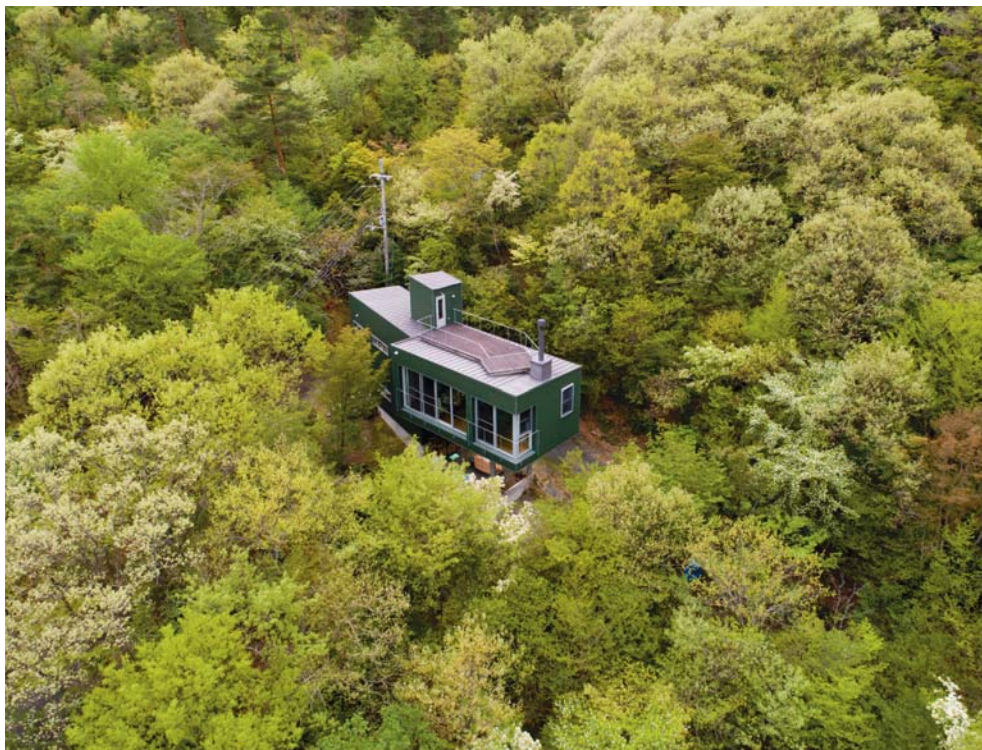
でに決めていかなければいけないのかということも、リアルに肌で感じていただけます。昔はお施主さんと現場との間を調整するのが設計の役割だと思っていましたが、それだけではつまらないので、あるときから巻き込み方式に変えました。

——大きく複雑な施設を設計するということには、難しいことも多いよ

うですが、それでも取り組むモチベーションとは？

河井 使命感ですかね。任せていただいて頼りにされているので、がんばりたい。それだけです。

同じ土俵でアイデアを出し合う、 寺山さんとの家づくり。



『寺山邸』は、およそ10年前にできた別荘だ。ここは河井さんがゆる建築設計で初期に手がけた仕事で、「お施主さんと共に空間を検討するスタイルを確立するきっかけとなった」という。場所は滋賀県内の、琵琶湖を見下ろす山の斜面。くの字に折れ曲がる細長い箱が、小さな箱と丸柱で持ち上げられ、森の中に浮かぶ。階段や廊下の繊細な折れ曲がり、大小の窓、個性ある素材の無理のないうおさまりから、ここが丁寧に設計された空間だとわかる。

住人の寺山夫妻は「自然の強さに対抗する建築であること。そして情報を遮断してアイデアを考える、お

寺のような場所にしたい」という、抽象的な要望を持っており、河井さんとの打ち合わせも独特だった。

「要望やイメージを伝えるためにスケッチや雑誌の切り抜きなどをくださるのですが、いずれも結論ではなく方向性を示すもので、そこからお互いに考え方や形を発展させていきました」と河井さんは振り返る。

当時の資料を見せていただくと、河井さんの手描き図面からも、妻の由布子さんの用意したスケッチや切り抜きからも、暮らしに対する想像力の豊かさが伝わってくる。繊細な空間の背景には、濃密なプロセスがあったのだと納得ができた。

医療福祉施設のプロフェッショナルが 利用者の思いを具現化する。

ゆう建築設計は医療福祉の分野で、建物を利用する利用者や介護・支援・看護をする人たちに役立つ工夫を行い、医療福祉分野が持つ社会的役割に寄与することを会社が存在する意味としています。

ゆう建築設計として医療福祉の分野で独自の多くのノウハウを開発し、それらのノウハウは積極的に開示しています。特に建築からあまり検討が進んでいない分野について取り組んでいます。医療分野では「透析」「精神科」「中規模病院」福祉分野では「障害者」「高齢者」です。

建築から役立つことは、建物を建てるのが前提となります。依頼をいただいた各案件にはゆう建築設計の建築家が担当者となります。ゆう建築設計が持つ深いノウハウは担当者に共有されていますが、建物を具体的に決めるのは各担当建築家の役割となります。

そのためゆう建築設計の各建築家はそれぞれの建築に立ち向かう思い、建築の技術などを各自が高いレベルに保ち続ける強い思いを持っています。形への感性は皆違います。ゆう設計の建築家は利用者の思い、建築への思いをそれぞれの感性の中で実際に建つ建物に具体化していきます。

この時空読本ではそのような建築家の一人を紹介します。

株式会社ゆう建築設計 代表取締役 砂山憲一



代表取締役
砂山 憲一



専務取締役
相本 正浩



常務取締役
東京/所長
河津 孝治



取締役
近藤 吉広



取締役
岩崎 直子



取締役
河井 美希



取締役
田淵 幸嗣



取締役
玉井 英登



取締役
矢木 智之



今津 恵美



清水 大輔



竹之内 啓孝



加藤 クリム



秦 智子



木下 博人



垣守 亜由美



丸川 けいこ



山崎 慎二



亀田 学



山本 晋輔



山本 朋子



富岡 岳



辻村 拓也



山下 かれん



中嶋 友美



川崎 優里



延川 知恵



野村 祥子

株式会社 ゆう建築設計

<http://www.eusekkei.co.jp/>

■京都本社

京都府京都市中京区四坊堀川町 617

TEL : 075-801-0022 FAX : 075-801-8290

■東京事務所

東京都港区新橋 5-15-5

交通ビル 5F

TEL : 03-6721-5430

FAX : 03-6721-5431

■大阪事務所

大阪府中央区道修町 3-2-5

日本バルク薬品第 2 ビル 3F D 号室

TEL : 06-6232-1533

FAX : 06-6232-1536



時空読本 ゆう建築設計の建築家
空間の質を問う。

著 者：河井美希

発行日：2019 年 9 月

発行人：砂山憲一

発行所：株式会社 ゆう建築設計

〒 604-8254

京都市中京区堀川通錦小路上ル

四坊堀川町 617 番地

TEL 075-801-0022

編集・デザイン：平塚桂

撮 影：大坊崇